

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



NHKの番組取材で昨年9月、南天門自然植物園を訪れました。左から大同事務所の郭宝青さん（2000年）、王萍さん（1995年）、魏生学さん（1993年）、高見副代表、周金さん（1999年）、李向東さん（1994年）、周金夫人。カッ

Contents

- 2019年 年頭のご挨拶 P 2
- 2019 春のスタディツアー参加者募集 P 3
- 年末寄付のご報告 P 3
- 蔚県などで鳥調査を実施しました P 4
- 大同緑化協力 25年の軌跡 P 5

2019.1
185

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

2019 年頭のご挨拶

2019 年を迎えました。日中両岸の皆様、新年快樂！あけましておめでとうございます。昨年は大変お世話になりました。ありがとうございます。今年も緑の地球ネットワークをよろしくお願いします。



引き続き緑化地を見守っていただいている大同の皆様、非常非常感謝！新しいプロジェクトの準備をいただいている蔚県の皆様、辛苦了 謝謝！振り返ると、大同では累計 5,920 ヘクタール 1,887 万本を植え、かつての荒地が一望の緑に変貌した場所もあります。いっぽう緑化が進んだために、また大同市の社会・経済状況の急速な変化によって新しい緑化用の土地をみつけれなくなりました。このためここ 2、3 年は大同における緑化活動を集大成して、新しい方向を打ち出すという GEN にとっては節目の時期でした。いわば活動が不安定になるおそれのある期間

でもあったのですが、それにもかかわらず堅固なご支援をいただいた会員のみなさま、企業、団体、各種組織および広く関心をもっていただいた方々に深く感謝します。

おかげさまで、新しい土地の蔚県でも確実に物事が進み出したと感じています。大同と同様の荒地修復型の緑化として、一昨年は山地でマツを 33 ヘクタールに植えました。昨年と今年で荒地になっている古い時代の氾濫原にアンズ、マツ、ヤナギなどを 67 ヘクタールに植えます。蔚県の気候は大同に比べるとやや穏やかで緑化はむしろ容易とおもわれます。このため緑化はやればできるということでこの地域の政策課題としての優先度が低かったとおもわれます。また現在非耕作の平地もたくさんあり、当分のあいだ緑化地は確保できます。

また、新しい方向として、湿地の回復に取り組みます。ラムサール条約以後生物多様性の保全における湿地の重要性が認識されて世界の各地で保護湿地の指定や復元回復がおこなわれています。実は中国政府は湿地保護に熱心

で、人民網日本語版（2018.02.05）によれば「中国にある世界の重要湿地は 57 か所に達し、602 か所の湿地自然保護区、898 ヶ所の国家湿地公園試験ポイントを建設している」と報じられています。中国の乾燥した地域に湿地があるの？と疑問におもれるでしょうね。逆にいえば周辺が乾燥地だからこそ湿地が重要なのです。周辺に類似のものが少ないので湿地は貴重な植生や生態系といえます。また湿地の役割として注目されている渡り鳥の中継地としての意味も大きくなります。地図をみると蔚県を貫いて壺流河が流れていることになっています。しかし現地で見るとどこが河なのかわからないところが多いのです。地形が平坦なために場所によっては水が滞留しているところがあり湿地が形成されています。ただし現状は放牧されて草が喰われているため植生は貧弱です。壺流河にそって壺流河国家湿地公園（1,740 ヘクタール、延長 58 キロメートル）と市街地に隣接して蔚県の玉壺湿地公園が計画されています。この玉壺湿地公園内の 7 ヘクタールの土地で湿地の植生を回復し、また蔚県の地域樹木の見本園を造成します。訪れる人々にとっての快適な環境となり、土地の人々が本来この地域に存在する多様な植物について関心を広げる一助になればと期待します。鳥類のための安全な水面や茂みも確保します。北と南へ移動する渡り鳥の中継地になればと期待しています。鳥には国境はありませんので、まさしく GEN の定款にある国境を越えた交流ですね。

蔚県は、歴史の古い街ですが、張家口線の鉄道から外れたためにかつての街並みがよく残っています。現地の人々もそれらを活かす形で将来を考えているようです。また南部の山には比較的容易に到達できて、亜高山帯のお花畑も楽しむことができます。この春ごろには高速道路が開通して北京から 3 時間ほどで到達できるようになります。ツアーにもぜひご参加ください。

講演会、学習会、支部活動、運営懇談会、総会、自然に親しむ会など様々な形での参加とご支援、ご協力をお願いします。

運営懇談会を開催しました

2018 年度の運営懇談会は 12 月 1 日に東京の淑徳大学で、12 月 8 日に大阪のクレオ大阪中央で開催しました。東京会場には 11 名、大阪会場（写真）には 19 名が参加しました。



まず高見副代表による中国での緑化協力の報告と 11 月におこなわれた野鳥調査の報告が行なわれました。そのあと参加者が張家口市蔚県でのプロジェクトから国内での活動についてまで幅広く意見を交換し、議論しました。

中国での野鳥の調査の報告については参加者の興味関心を集め、多くの質問、意見が寄せられました。

国内活動については、関東ランチのプロジェクトや自然観察会、東海岸林再生活動のツアー内容や広報宣伝の仕方などさまざまな意見やアイデアが出されました。



フ 1 名が関西空港から同行します。
○参加ご希望の方は、GEN 事務所までご連絡ください。資料は（株）マイチケットから発送します。

参加者募集

2019 春 黄土高原スタディツアー

2019 年も張家口市蔚県でツアーをおこないます。蔚県での活動も 3 年目、代王城鎮での植樹のほか、樹木見本園や暖泉鎮の古い町並み見学など中国の歴史や自然にも触れられる旅です。

○日程：2019 年 4 月 6 日（土）～ 11 日（木）5 泊 6 日
○旅行代金：198,000 円（学生割引 2 万円）（国際航空運賃、航空使用料、中国国内の交通費／食費／宿泊費を含みます。旅券取得費用、海外旅行保険、燃油特別付加運賃、個人行動

時の費用は含みません。GEN 年会費＜一般＝12,000 円、学生 3,000 円＞が別途必要です）※全日空利用 ※関西空港発着 ※東京発着、北京合流希望の方はご連絡ください。

○訪問地：中国河北省張家口市蔚県（北京経由）
○定員：30 人程度
○最少催行人員：10 人
○申込締切：2 月 22 日（金）※締切後の申し込みはお問い合わせください。
○添乗員は同行しません。GEN スタッ

参加者募集

GEN 自然と親しむ会 野の道シリーズ⑨ 冬の植物園で自然観察

大阪市立大学理学部附属植物園では昨年 9 月の台風の影響で研究対象樹木 400 本以上が倒れてしまいました。人の背丈の 2 倍以上の根を持つ樹木もあり、中にはあえてそのままにして根のようすを観察できるようになっているものもあります。この機会に植物園に足を運んで見学してみませんか。

○日程：2019 年 1 月 27 日（日）10 時～ 14 時ごろ※小雨決行
○場所：大阪市立大学理学部附属植物園（大阪府交野市私市 2000）
○集合：10 時に京阪交野線「私市駅」改札
○案内：前中久行さん（GEN 代表）
○参加費：500 円（保険料を含む、別途植物園入園料（大人 350 円、中学生以下無料）が必要）
○持ち物：弁当、飲み物、敷物、雨具、帽子、動きやすい服装、靴
○定員：30 名
○申込み：1 月 23 日（水）までに氏名、生年月日、連絡先を GEN 事務所までご連絡ください。

年末寄付のご報告

おかげさまで 888,729 円のご寄付があつまりました
みなさまのご協力ありがとうございました

いつも GEN を応援していただき、ありがとうございます。年末寄付のお礼とご報告です。

2018 年を表す漢字に「災」が選ばれるなど、各地で自然災害が発生し、寄付された方も多いかと思ひます。そんななか、GEN の会報 11 月号で年末寄

付のお願いをしたところ、11 月 1 日～ 12 月 27 日までの間に 888,729 円（58 件）のご寄付をいただきました。みなさまのご協力どうもありがとうございました。

前年同時期の寄付が 1,273,877 円（67 件）でしたので、金額、件数ともに前

番組放映のお知らせ

2018 年 9 月、制作会社トップシーンの楊燁ディレクターなどが、河北省張家口市蔚県と以前の協力地・大同市で取材し、NHK ワールド TV の番組が制作されました。日本の国際協力を海外に伝える「Side by Side」シリーズで英語版です。

【国内向け】2019 年 1 月 22 日（火）03 時 30 分～ 03 時 58 分 NHK-BS1
【海外向け】2019 年 1 月 16 日（水）10 時 30 分～ 10 時 58 分 NHK ワールド TV

大同の場面では 25 年間をかけた私たちの努力が生み出した巨大な変化をみていただくことができます。各段階で参加して下さったみなさんにぜひみてほしいと思ひます。

年度を下回ってしまいました。また、今年度の寄付予算 850 万円に対しては約 150 万円のマイナスで、厳しい状況が続いています。無理のない範囲で結構ですので、ひきつづきみなさまのご協力をお願いいたします。

また、GEN の HP からクレジットカードを使って寄付、会費の納入が可能ですので、ぜひご利用ください。

蔚県などで鳥調査を実施しました

2018年11月26日から30日まで、2人の専門家が蔚県を訪れ、湿地を中心に鳥類の調査を実施しました。

2018年春から「蔚州郷土樹木園」の建設に取り組んでいますが、その場所が玉壺湿地公園のなかです。その下流では蔚県壺流河国家湿地公園(1740ha、延長58km)が計画され、両方の地元責任者を蔚県市政局の趙志軍副局長が兼



ねています。

淀川環境委員会委員として湿地の管理に造詣が深く、鳥の専門家でもある高田直俊先生が、4月と9月に蔚県を訪れたとき、趙志軍さんから野鳥の調査を依頼されました。

高田先生がやはり野鳥の専門家の大西敏一先生を誘ってくださって、11月の調査が実現し、高見がおともしました。大西先生は図鑑『日本の野鳥650』(平凡社、2014年)の著者であり、日本だけでなく世界の野鳥に通じておられます。茂みに潜む小鳥を誘い出す技にはほんとにびっくり！

水面が凍結する前の渡り鳥の多い時期ときいてでかけたのですが、実際にはダム湖などは凍結がすみ、ピーク

は過ぎていました。それでも蔚県と地続きの大同市広霊県の2つのダム湖などで34種、5千羽近くと、河北省と北京市の境の官庁ダムで18種を観察することができました。これまでの地元リストにないものも多数あります。地元で野鳥愛好者を養成することの重要性を痛感しました。

11月30日の帰国前、私たちの協力事業のカウンターパート、中国国際青年交流中心の馬興民主任が昼食をともにし、激励してくださいました。

前中久行代表の新年のあいさつにあるように、ここの湿地も野鳥も世界的に貴重なものです。その調査を前にすすめるために、新しい年の6月中旬と10月末～11月初めに、高田、大西両先生の参加のもとに野鳥調査を継続することとし、ツアーへの参加者を募集する計画です。関心をお持ちの方は予定してください。(高見)

アセビとシキミでした。青粘土にバイオ炭と牛糞を体積比で同量混ぜて山取りの苗を植えてみました。半年後に枯れずに元気でしたので立教大学の土田ゼミ合宿の学生に植えてもらいました。さらに翌年の2月にもIVUSAの学生の協力の下、バイオ炭の製造や植え付けをしてもらいました。

今秋の合宿では雨に祟られた合宿2日目に、山取りしておいた実生のシキミ苗の鉢上げ、そしてシキミの種を乾かないようにストックしてそれに鹿の好みそうな牧草の種を入れた粘土団子を作成しました。晩ご飯のおかずは藤原流の芋煮会と猪の焼き肉がメインとなりました。最終日は天気恵まれ、GENの圃場で春から育てていたエビイモとサツマイモをたっぷり収穫し箱詰めしてあちらこちらに発送しました。



今年もさまざまな取組みに挑戦、秋の合宿

藤原 國雄 (GEN顧問)

10月26日(金)～28日(日)の日程でGEN関東ランチ秋の西伊豆合宿をおこない、4名が参加しました。

2010年から静岡県西伊豆町宇久須で始まったGEN関東ランチの春秋合宿も、残念ながら、年々参加者が減少しています。今年は中心メンバーの上田信先生が研修休暇のため参加できず、GENの会員は4名の参加。今年から参加してくれているIVUSA(国際ボランティア学生協会)からは春に続いて秋も1名のメンバーが大阪から参加してくれました(秋は当初2名の予定でしたが、残念なことにうち1名が体調を崩し合流できませんでした)。それでも宇久須の方々から、サトイモや猪肉の差し入れもあり、愉快で美味しい芋煮会ができました。

この合宿は当初、宇久須まちづくり協議会の休耕田再生プロジェクトにGEN関東ランチも合流して始まりしました。その後協議会の「黄金崎の松・再生プロジェクト」に活動の中心が移っています、急斜面が続くためIVUSA

の若者の力を借りて、小川眞顧問の専門的なご指導の下、地域住民、伊豆の農業高校の高校生と教員、まちづくり協議会のメンバーも力を合わせています。今年の2月で5回目を迎え、小川顧問から「松は元気になっているよ」とお墨付きをいただきました。

新しいプロジェクトとしては、宇久須宿舎を借りている東海工業伊豆事業所の伊豆珪石露天掘りの鉱山跡地の緑化に取り組んでいます。これは東海工業から関東ランチのまとめ役の上田先生に緑化協力の依頼があり、スタートしました。pH2～3の青粘土、群れをなして食害するニホンジカ、土壌もないガレ場など最悪の条件がそろっています。

青粘土のpHはバイオ炭と牛糞である程度矯正できました。問題は緑化に使用する樹種です。選んだのは酸性に強くシカの食害を受けず、自生している



大同緑化協力25年の軌跡

見つかった自然林

GENの山西省大同市での25年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で12回目です。(高見邦雄)



碣寺山の自然林を訪れた立花吉茂前代表

大同市陽高県の民謡に「靠着山呀，没柴烧。十箇年頭，九年早一年澇…」(山は近くにあるけれど、煮炊きに使う柴はなし。十の年を重ねれば九年は早で一年は大水…)という一節があります。黄土高原の実情をみごとに表しており、1992年から通いつづけた私の実感でもあります。山という山に樹木はなく、草もまばらだったのです。

ところが1998年夏に霊丘県を訪れると、地元の技術者の李向東さんが「自然林が見つかった！こんな大きな木がある」といって、一抱え以上のジェスチャーをします。そこへ到達するまでの経過がおもしろいのですが、楽しみ(?)は次回に残すことにして、その林の成り立ちを紹介しましょう。

自然林があるのは碣寺山(1768m)の山頂付近で、河北省との境界から5km余りのところ。いちばん近いふもとの村から高低差で850mあり、私たちの急ぎ足で3時間半はかかりました。雨にたたられ困難をきわめましたが、2000年8月、やっとのことで初歩的な調査ができました。

中心をなすのはナラ、シナノキ、カバノキ、ヤマナラシなどの落葉広葉樹で、あわせて300㎡の2つのプロットに、胸高直径3cm以上の樹木が合計58本あり、樹高最大のシナノキは9.0m、胸高直径最大のナラは25.5cmでした。ほかに数種類の灌木も混じっており、十

分な時間をかけられませんでした。12科16属19種の樹木を確認できました。大きめの木の年輪解析の結果、いろんなことがわかりました。20年余りまえの1978年にほとんどの木が伐採され(前出のナラやシナノキはそのとき生き残ったもの)、その後自然に再生したまだ若い林です。それを裏付ける切り株も残っていました。そして、そのときを最後に柴刈りはなくなったのです。

ふもとの村の近くにアブラマツの林がありました。1960年代に植えられたもので、15年もたつと下枝が生活燃料に使えるようになります。そのために山のうえまでタキギ取りにくる人はいなくなりました。踏み分け道にも灌木が生い茂り、タキギを背負って歩けはしません。

調査できたのは碣寺山の山頂付近ですが、村と反対側の急斜面に森林があり、高低差で350mほど下った谷の底にナラ、クルミなどの直径40cmを超える木がたくさん茂っていました。李向東さんの一抱え以上のジェスチャーは誇張で



一抱え以上の樹木があった谷底の自然林

はなかったのです。なかには胸高直径25cmもある珍しい白実のナナカマドでありました。そして腐葉土と落ち葉が林床を厚く覆っていました。仮にここで木を伐っても、急な斜面350mを担ぎ上げ、さらに850mを下って村まで持ち帰らないといけませんから、さすがにそんなことはできなかったのです。

この自然林が見つかったことで、緑化についての私たちの考え方は一変しました。どこでもとはいいいませんが、森林が成立する自然の条件はあるのです。ここまで森林がなくなってしまったのは、やはり人間の営為のためです。そして、マツを植えたことで、山のうえに自然林が成立したとなると、緑化についての考え方をもっと柔軟にしてもいいのかもしれない。

ワン・フェス for Youth に参加しました

12月24日(月・祝)、大阪YMCAでワン・ワールド・フェスティバル for Youthがおこなわれ、GENはブース出展で参加しました。高校生が主体の国際協力のイベントなので、最近の若者の興味感心を探ろうとブースを訪れた高校生に質問してみました。スマホ世代の彼らからSNSを使った宣伝について「instagramのストーリーはマスト」、「Youtube動画は1分以内で」「ゆるキャラのラインスタンプをつくる」などの意見をもらい、感心して帰ってきました。

『緑の地球』を電子版でお届けします

現在、GEN会員、会報購読者でご希望のかたにGEN会報『緑の地球』の電子データをe-mailにてお届けしていますが、新たに希望者を募っています。

経費と資源の節約にご協力いただけるかた、また、印刷物がたまって困る、電子データで気軽に読みたいというかたなど、GEN事務所までお名前と送付先アドレスを明記してe-mailでご連絡ください。

次号よりPDFファイルで送付いたします。

情報ひろば
いっしょなかたち

第26回

ワン・ワールド・フェスティバル

西日本最大の国際交流のイベントです。国際協力 NGO の活動紹介、シンポジウム、民族料理などもりだくさんの内容です。

- 日時: 2019年2月2日(土)、3日(日) 10時～17時
- 場所: 関テレ扇町スクエア・北区民センター・扇町公園(地下鉄「扇町」駅直結、JR環状線「天満」駅徒歩3分)
- 入場無料・雨天決行
- 主催・問い合わせ: ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会事務局(〒546-0002 大阪市東住吉区杭全1-15-18 大西ビル3階(特活) 関西国際交流団体協議会杭全分室)

ウータン・パーム油学習会第12回
アブラヤシ農園と人権の問題
インドネシアの「希望の地」
パプア州から

日本でも身近な食品や洗剤に使われているパーム油の生産現場、インドネシアの現状について現地の声を伝える学習会です。

- 日時: 2019年2月2日(土) 15時

* 当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
* 当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

10分～16時10分

- 会場: 大阪市北区民センター1階 第1・2会議室(大阪メトロ堺筋線「扇町駅」直結 ワン・ワールド・フェスティバルの会場です)
- 講師: ディアント・バクリアディさん(インドネシア土地問題情報センター代表)
- 参加費: 無料
- 定員: 50名
- 申込み: 申込みフォーム(<http://urx.space/Oqrs>)よりお申込みください
- 問合せ: ウータン・森と生活を考える会(〒530-0015 大阪市北区中崎西1丁目6-36-308 URL <http://>

第22回

六甲奨学金基金のための古本市

六甲奨学金基金の古本市のため、古本集めています。ご自宅で眠っている古本がありましたらお送りください。

- 受付期間: 3月1日～3月31日まで
- 送付方法: 直接持参または送料送り主負担で送付【注意】汚れのひどいものは不可。辞書、新しい本歓迎。絵本、マンガ、洋書可。雑誌、教科書、参考書、コンピュータ解説書、文学

全集、百科事典などは不可。お送りいただいた本はお返しできません。

- 送り先・問合せ先: 神戸学生青年センター古本市係(〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 tel. 078-851-2760 fax. 078-821-5878 e-mail: info@ksyc.jp URL: <http://ksyc.jp/>)

★六甲奨学金基金のための第22回古本市

- 3月15日～5月15日まで毎日開催します。本の整理などのボランティアも募集しています。詳細は上記までお問い合わせください。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。本年も GEN をよろしく願いします。2019年の干支は亥、イノシシの如く猪突猛進に、とはいきませんが、今年も地道にコツコツと緑化活動を継続してまいりますので、みなさまの応援をどうぞよろしくお願いします。

今号はテレビ番組の告知のためにいつもよりちょっと早い発送となりました。その「Side by Side」というテレビ番組、取材に来たディレクターが「いままでの取材で一番たのしかった」という感想を述べたそう。英語での放送となりますが、ぜひみなさまにご覧いただけるとさいわいです。